

発行：学園都市大学古文書研究会  
発行責任者：代表 吉田健一



## 公開講座

### 「道中日記に旅と祈りを読む」

～富士登山から四国遍路まで～世界文化遺産によせて

東京家政学院大学教授

西海賢二氏

四月二十五日、学園都市大学い  
ちよう塾主催の公開講座「道中日  
記に旅と祈りを読む」富士登山か  
ら四国遍路まで～世界文化遺産に  
よせて」が講師に東京家政学院大  
学教授 西海賢二氏を迎えて、八  
王子市学園都市センター・イベン  
トホールで開催された。

はじめに、平成四年にスタートし  
た富士山の世界自然遺産登録に向  
けての活動が、四年前から世界文  
化遺産に切り替えられて登録にこ  
ぎ着けた経緯をはなされ、文京区  
ふるさと歴史館に保管されている昭  
和四年の富士小御嶽神社にお参り  
したときの写真や富士講の祭具など  
の写真、江戸市中の富士参りの図  
絵などが紹介された。

次に本題に入り、講師所蔵の富士  
道中日記の内、横帳と呼ばれる安  
政二年の「富士道中小遣覚帳」の  
一部抜粋記述の解説があり、通過  
儀礼の読み解き方や地域性を考慮  
した人名・地名の読み方の必要性  
などが紹介された。「富士道中小遣  
覚帳」には、ほとんど、お金を使っ  
た日付と金額それに用途名の三項  
目しか記述されていないが、用途名  
に書かれている風習や儀礼の意味合  
いなどから想像力を逞しくすれば当  
時の旅の情景がさまざまなと浮かんで  
くる。道中日記などの解説には各

地の伝承を掘り起こす重要性を説  
いた。

最後に講演者自身の四国乞食遍  
路の体験談と共に四国遍路の世界  
文化遺産登録に向けての様々な取  
り組みが紹介された。



## 『あつまぐさ』の概要

顧問 小林正博

本年二〇一五年度の受託事業は  
四グループとも「あつまぐさ」の解  
読に挑戦してきました。全四巻か

らなる江戸期の版本ですが、すでに  
巻一は去年、北グループの皆さん  
に解読していただき創価大図書館に  
提出しました。したがって巻二、巻  
三、巻四の解読が終われば全巻の  
解読文が揃い、未公開文書解読の  
偉業(?)が、ここに達成されるこ  
とになります。

この書の詳細について語ってくれる  
文献は、管見の限りわずかに『国  
書総目録』で若干の紹介がある程  
度です。そこには「あつま草(あ  
づまぐさ) 四巻 分類：教育 著  
者：阿陽雅山 成立：享保二 版  
本：日比谷加賀」と記されていま  
す。説明を加えると、あづま草は

じりて書き、内容の分類をして、読  
みやすく、わかりやすい表現で、時  
には談諧(かいかい)(冗談)を交  
えて喜ばし、玩(がん)(物事の趣)  
深く感銘を与える。だから婦人や  
子どもたち、行戸走肉(こうしそ  
うにく)(学ぼうとしない者)のも  
のたちは、皆争ってこの本を読み、  
感銘し、喜び、過ちを反省し、善  
の心を養うようになるはずである。」  
と。

全四巻、内容的には教育書の類い  
で、著者は阿陽雅山、成立は享保  
二年(一七一七年)、版本は日比谷  
図書館の加賀文庫にあるということ  
になります。この中で、著者の阿陽  
雅山については残念ながら詳細不明  
です。しかし幸い、版本「あつまぐ  
さ」には巻一に「序」が載っています。  
これは阿陽雅山との関係はわかりま  
せんが、徳島藩の儒学の師範だった  
増田謙之という人が書いたものであ  
つまぐさ出版に対する寄稿文のよう  
な趣があります。漢文なので意味  
がつかみにくい所がありますが、だ  
いたい次のような内容になっていま  
す。

この「序」は「正徳丙申孟夏之月  
下浣 阿陽ノ後学増田謙之書」で  
結んでいます。「正徳丙申(ひのえ  
さる)」は一七一六年ですから「あ  
つまぐさ」出版の前年であり、「孟  
夏之月」は夏のはじめの四月、「下  
浣(かかん)」は下旬になります。  
序を書いた増田謙之(増田立軒  
(りつけん)とも)は「阿陽ノ後学」  
と言っていますから、この時すでに  
阿陽雅山は死去していたのかもしれ  
ません。

「鄙言(ひげん) 俗語(世俗的な  
言葉)であっても、教養のない人  
には神(ひ)(役立つこと)となるこ  
ともあり、かえって好訓ともなる。  
この思いを抱いて著者の雅山氏は吾  
妻草をまとめたのである。」

内容については、ごく身近なもの。  
ことひとについての善(よし)し悪(あ)  
しを峻別して示すところに主眼があ  
り、軽妙かつ簡潔な記述で初学者  
にも読みやすい書物になっています。  
ただ、序で記されている「皆争ひ取  
りて之を讀」んだかどうかは、はな  
はだ疑問です。売れないで一刷(いち  
ぢず)りて終わったのでしょうか、  
今では日本にも数部しか現存しない  
ような貴重書になっています。  
いずれにしても本書は、現代を生  
きる私たちにとても共鳴するところ  
、違和感を感じるところが入り  
交じり、楽しく読み合える好書とい  
えるでしょう。